

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果及び改善策

佐伯市立東雲中学校

4月17日に、中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われました。その目的・取り扱いについての配慮事項については、以下のとおりとなっています。

1 全国学力・学習状況調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 全国学力・学習状況調査結果の取扱いに関する配慮事項

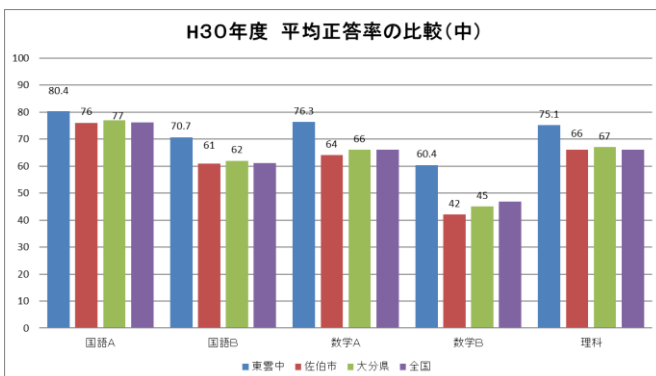
調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげるのが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

《お願い》

本調査結果の公表は、上記の目的を達成するためのものであり、学校間の序列化や過度の競争が生じないように、閲覧に当たっては、下記の事項のご配慮をお願いします。

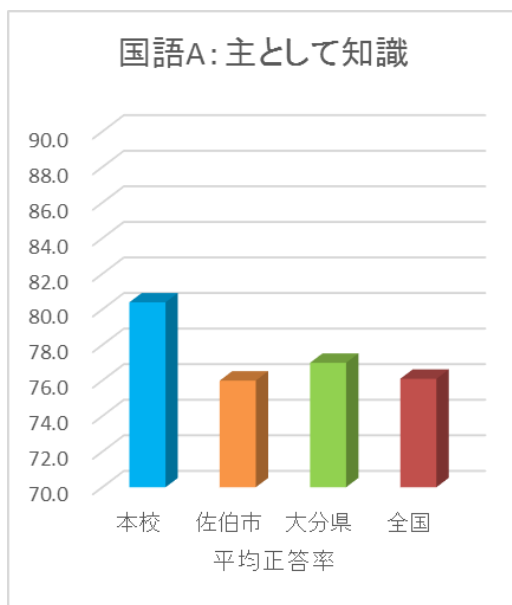
- 本校の平均正答率をほかの文書等に転載しないこと。
- 他校の平均正答率と並べたり、比較したりしないこと。
- 複数の学校の平均正答率を並べ、ランキング付けしないこと。

1 調査結果（本校生徒と市・県・国との比較）



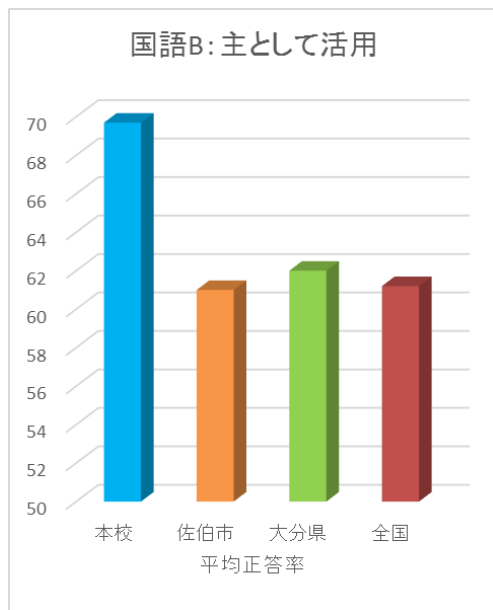
	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
東雲中	80.4	70.7	76.3	60.4	75.1
佐伯市	76	61	64	42	66
大分県	77	62	66	45	67
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
県比	4.4	9.7	12.3	18.4	9.1
県比	3.4	8.7	10.3	15.4	8.1
全国比	4.3	9.5	10.2	13.5	9

2 調査結果（国語A：主として知識について）



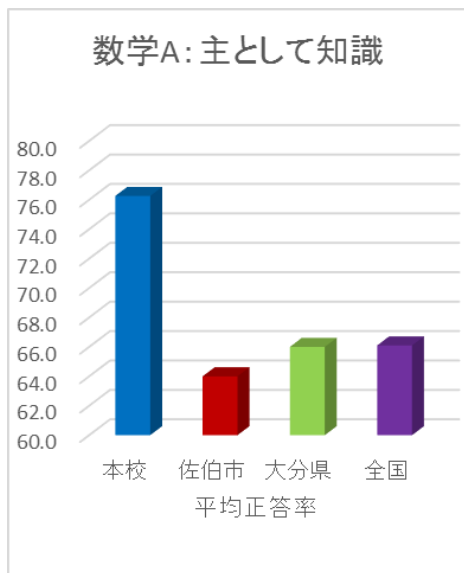
国語A：主として知識					
項目	本校	佐伯市	大分県	全国	
平均正答率	80.4	76	77	76.1	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	75.8	75.4	75.2	75.2
	書くこと	75.0	75.0	74.8	73.9
	読むこと	88.6	76.9	77.1	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	99.5	76.5	77.2	76.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度				
	話す・聞く能力	75.8	75.4	75.2	75.2
	書く能力	75.0	75.0	74.8	73.9
	読む能力	88.6	76.9	77.1	76.7
問題形式	言語についての知識・理解・技能	80.5	76.5	77.2	76.5
	選択式	82.7	76.9	77.3	76.8
	短答式	76.0	75.1	75.4	74.7
	記述式				

3 調査結果（国語 B：主として活用について）



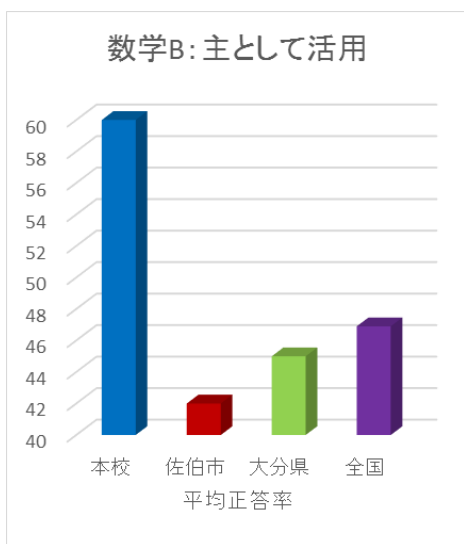
国語B：主として活用					
項目		本校	佐伯市	大分県	全国
平均正答率		70	61	62	61.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	78.8	75.5	76.3	76.6
	書くこと	45.5	32.6	32.4	31.3
	読むこと	63.6	53.5	54.1	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.6	53.7	52.7	49.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	63.6	51.3	51.1	50.3
	話す・聞く能力	78.8	75.5	76.3	76.6
	書く能力	45.5	32.6	32.4	31.3
	読む能力	63.6	53.5	54.1	53.5
問題形式	言語についての知識・理解・技能	63.6	53.7	52.7	49.2
	選択式	71.2	65.6	66.7	66.7
	短答式				
	記述式	63.6	51.3	51.1	50.3

4 調査結果（数学 A：主として知識について）



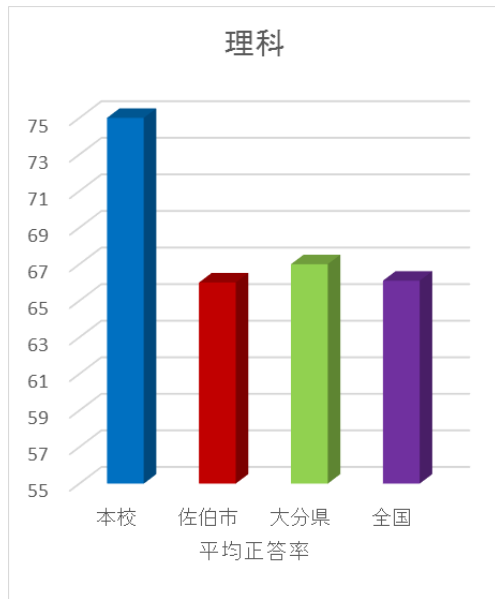
数学A：主として知識					
項目		本校	佐伯市	大分県	全国
平均正答率		76.3	64	66	66.1
学習指導要領の領域	数と式	81.1	73.2	74.0	71.1
	図形	78.0	67.1	68.5	69.1
	関数	69.3	50.7	54.2	55.5
	資料の活用	70.5	57.7	61.3	63.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0.0			
	数学的な見方や考え方	0.0			
	数学的な技能	81.2	69.2	70.9	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	73.1	61.4	63.5	63.3
問題形式	選択式	70.7	58.4	60.9	61.5
	短答式	81.8	70.5	71.8	70.7
	記述式	0.0			

5 調査結果（数学 B：主として活用について）



数学B：主として活用					
項目		本校	佐伯市	大分県	全国
平均正答率		60	42	45	46.9
学習指導要領の領域	数と式	65.9	48.4	50.4	51.4
	図形	63.6	39.1	43.8	46.7
	関数	63.6	52.4	53.0	52.8
	資料の活用	50.0	31.5	35.7	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度				
	数学的な見方や考え方	60.0	41.2	43.6	45.1
	数学的な技能	61.4	45.6	49.6	51.3
	数量や図形などについての知識・理解				
問題形式	選択式	63.6	57.9	61.1	61.5
	短答式	68.8	51.1	54.5	56.2
	記述式	47.3	24.1	26.2	27.9

6 調査結果（理科について）



理科					
項目		本校	佐伯市	大分県	全国
平均正答率		75	66	67	66.1
枠組み	知識	74.4	68.0	70.0	67.9
	活用	75.6	64.0	65.0	64.9
学習指導要領の領域	物理的領域	83.1	71.2	74.1	74.4
	化学的領域	83.0	65.2	66.8	65.0
	生物的領域	74.2	73.5	73.5	72.5
	地学的領域	61.0	59.1	58.6	57.8
評価の観点	自然現象への関心・意欲・態度	100.0	71.5	73.1	74.0
	科学的な思考・表現	75.6	64.4	64.8	64.9
	観察・実験の技能	77.3	66.1	69.8	67.0
	自然現象についての知識・理解	73.9	69.2	70.4	68.7
問題形式	選択式	80.2	71.3	72.3	70.9
	短答式	70.5	68.4	71.1	70.2
	記述式	63.6	49.2	49.4	50.1

6 分析結果

今回のテストの分析を2つの視点から行った。

- (1) 「評価の観点」、「問題形式」さらに無回答率などの観点から
- (2) 生徒の質問紙から

(1) 国語、数学について、「評価の観点」・「問題形式」さらに「各設問」の正答率・無回答率・主な誤答などの観点から

国語： 国語A（知識）、国語B（活用）問題とも、県や全国の平均を大きく上回っている。特に、国語B（活用）問題は国語A（知識）問題の正答率より県や全国に比べて高い数値である。評価の観点（国語A：知識）では「読むこと」、評価の観点（国語B：活用）では「話す・聞く能力」以外が、本校の生徒はよくできている。問題形式（国語B：活用）では、記述式を得意としている。

数学： 数学A（知識）、数学B（活用）問題とも、県や全国の平均を大きく上回っている。評価の観点では、（数学A：知識）と（数学B：活用）のどの領域も高い正答率にあり、特に「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」が高い数値である。また、問題形式でも、（数学A：知識）（数学B：活用）ともに高い数値を示しており、特に「記述式」は得意としている。

理科： 枠組みにおいて、（知識）（活用）とも、県や全国の平均を上回っており、特に活用を得意としている。評価の観点では、「自然現象についての知識・理解」以外は高い値を示しており、特に「自然現象への関心・意欲・態度」を得意としている。問題形式では、短答式がやや不得意のようであるが、「記述式」は得意としている。

（総合的に）

現3年生については、2年生の時の県の学力定着状況調査でも、全ての教科で市や県の正答率を上回っており、確実に実力をつけている状況にある。特に、どの教科においても「知識」よりも「活用」の正答率が高いことは、授業改善もさることながら、地域での体験的な活動を通して培われたものではないかと推測される。また、問題形式では「記述式」を得意としている生徒が多く、小学校からの継続した取組（文章を書かせる指導）の成果が現れているものと考えられる。

個別に回答の状況を見てみると、弱点を持った生徒もいることから、今後とも、授業における支援や補充学習など、個に応じた指導を充実させていく必要がある。

- (2) 生徒質問紙から「自分には、よいところがあると思いますか。」では、肯定的な回答が全国平均より20ポイント以上も低く、自尊感情の涵養が課題として挙げられる。しかし、家庭での会話の機会が多く、教員との人間関係も良好であることから、生徒指導の3機能を生かした授業改善やPTAと協働した取組が図れるものと思われる。

課題解決的な学習については、「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」において、90%以上の生徒が肯定的な回答をしており、継続した取組を進めていきたい。

質問紙の「1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」と「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」では、全国平均より10ポイント以上低く、50%に満たないことから、話し合いや発表について、焦点化した取組が必要である。

7 分析結果を踏まえた改善策

- 「新大分スタンダード」を意識して授業に取り組み、生徒指導3機能を生かした取り組みも行う。(継続)
- 単元をひとまとめとして、探求的な課題を設定して授業展開の工夫を図る。(継続)
- 授業評価アンケートを毎時間実施し、授業改善に生かす。
- 小単元ごとのチェックリストを作成し、生徒の理解状況やつまづきを全教職員で共有し、指導に役立てる。(継続)
- 条件のついた作文の記述ができるように、授業の振り返りで確認(発表、話し合い、教え合いなど)をさせたり、定期テストに組み込んだりする。(継続)
- 生徒の自己有用感に根ざした自己肯定感を高めるために、家庭での取り組みをサポートするために情報発信をPTAと協働して行う。